

令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施計画書(3年次)

1 研究の概要

(1) 研究主題

「農業の高度化・6次産業化への貢献 ～北のフルーツ王国ワイン特区と連携した町づくり～」

(2) 地域の現状と課題

余市町は、大都市札幌から1時間半圏内に位置する道内最大の果樹・園芸地帯で、平成23年11月28日構造改革特別法に基づくワイン特区の認定を受け、「北のフルーツ王国よいちワイン特区」としてワイン産業振興に力を注いできたことから、現在、醸造用ぶどうの栽培面積、収穫量ともに日本一を誇っている。その地域特性から、農業の高度化・6次産業化を踏まえた農業後継者・理解者の育成が地域にとって欠かせないものになっている。

(3) 研究目的と目標

本校は、小規模総合学科における地域の要請に応じた魅力ある学校づくりのために、社会で生きて働く力を身に付け、自らの力でたくましく未来を切り拓き、地域の創造に貢献できる人の育成を学校教育目標として生徒の教育に取り組んでいる。

本実践研究においては、新学習指導要領を踏まえた農業系列の体系的・系統的な実践であるワイン用ぶどう栽培の取組を通して、地域のニーズに対応した教育活動の充実を図る。また、基幹産業を支える人材や地域を守り支えていく人材を育成するため、地域の自治体、企業及び産業界などの関係機関との協働や高齢者など地域住民との交流を通して、生徒が地域社会の一員としての自覚を持ち、自ら課題を発見し、地域とともに解決を図る実践研究に取り組むことにより、本校のキャリア教育目標である「社会で必要となる力」を身に付けさせ、「地域で生き生きと活躍できる人材」を育成する。

(4) 研究内容

- ・関係機関等との連携・協働を通して、生徒自らが地域の課題を発見し、解決に向けた方策を立案する。
- ・地域社会の一員としての意識をもち、課題解決に必要なスキルの向上を図る学習を行う。
- ・農業従事者を志す生徒の増加に向けて、外部の教育資源を活用した取組を推進する。
- ・ワイン用ぶどう苗木の効果的な栽培を研究し、苗木不足の解消を図る。
- ・福祉・生活系列やビジネス系列を学ぶ生徒が第3次産業の研究として、ワインツーリズムを生かすノーマライゼーションの考えを踏まえた可能性や販売戦略を立案する。

(別紙様式)

(5) 実践研究の規模

3年次全員で「総合的な探究の時間（課題研究）」において実施する。

(6) 研究成果の普及

学校ホームページ、総合学科研究発表会や農業の各種発表会等で研究成果を発表する。

2 研究主題

農業の高度化・6次産業化への貢献 ～北のフルーツ王国ワイン特区と連携した町づくり～

3 研究の内容等

(1) 解決に取り組む地域の課題

ワイン用ぶどう苗の不足及び農業従事者不足が大きな課題となっている。

高校に対するニーズとしては、ぶどう栽培をはじめ、農業後継者の育成、6次産業化を図る戦略としての地元に根付く若者の育成が挙げられる。

余市町の基幹産業である果樹栽培を生かし、町の活性化につながる新たな視点に立った取組を実践する必要がある。

関係機関等が連携し、「どんな町にしたいか、またそのために必要なことは何か」について、地域全体で検討する体制を構築する必要がある。

(2) 研究目的と目標

(研究目的)

農業系列、ビジネス系列、福祉・生活系列の科目の学習を中心に研究を推進し、本校のキャリア教育目標である「社会で必要となる力」を身に付けさせ、「地域社会で生き活きと活躍できる人材」を育成する。

(研究目標)

- ・地域のニーズに対応した教育活動の充実を図り、基幹産業を支える人材や地域を守り支えていく人材を育成する。
- ・生徒が地域社会の一員としての自覚をもち、関係機関等との連携・協働を通して、生徒自らが地域の課題を発見し、解決する資質能力を育成する。
- ・地域に対する生徒の理解の深まりを調査するため、生徒に5月、10月の年2回アンケートを行い、到達度を分析する。(アンケートの設問は次のとおり)
 - 地域課題への理解が深まったか。
 - 地元に興味関心が高まったか。
 - 地域社会や専門機関への訪問を通じて興味・関心が高まったか。

(3) 研究内容

(内容)

- ・関係機関等との連携・協働を通して、生徒自らが地域の課題を発見し、解決に向けた方策を立案する。
- ・地域社会の一員としての意識をもち、課題解決に必要なスキルの向上を図る学

習を行う。

- ・農業従事者を志す生徒の増加に向けて、外部の教育資源を活用した取組を推進する。
- ・苗木不足を解消するため、ワイン用ぶどう苗木の効果的な栽培を研究する。
- ・福祉・生活系列やビジネス系列を学ぶ生徒がノーマライゼーションの考えを踏まえビジネスモデルの可能性や販売戦略を立案する。

(方法)

- ・農業従事者や町の機関等へのヒアリングや打合せを通して、課題の発見や解決に向けた方策を検討するとともに、クラウドを活用し、ぶどう栽培に係る画像や各種データを農業従事者等と共有するなど、ワイン用ぶどうの効果的な栽培に関する情報を提供する。
 - ・本校農場をはじめとする果樹園、実験施設を活用した「バイオテクノロジー技術を使ったブドウの茎頂培養」による苗の生産に関する学習、ウィルスフリー苗生産とブドウ苗木の高品質化を目指した「簡易的接ぎ木技術」の学習並びに第2次産業の「ワイン醸造」に係る学習を行う。
 - ・生徒の農業への関心を高めるため、企業経営者による栽培指導や講話、関係機関による起業セミナー等を実施する。
 - ・ワイン産業の資源を活用した高齢者のQOLの向上を図るため、本事業で連携する施設の高齢者に対するヒアリングを行う。
 - ・これまでの障害者理解とバリアフリー研究を踏まえ、果樹園のバリアフリー化や障害者の移動に大きな問題となるトイレ状況等の情報発信（マップ作成）を行う。
 - ・本事業で連携する施設の高齢者に対するアンケートを実施し、高齢者のQOLの向上などの観点から本事業の評価を行う。
 - ・ワイン加工・販売・サービス・マーケティングの実態調査から販売戦略を立案する。
 - ・農村景観発信のため新たなビュースポットを発掘するとともに「余市八景（ワインブドウ畑）」の景観について、旅行会社と連携して企画するツアーの参加者へパンフレットを配付することで積極的に情報発信する。また、ビュースポットへの交通アクセス調査、交通アクセスの改善を目指し、ツアー企画を連携して実施する予定の旅行会社への提案等の活動を行う。
 - ・余市を訪れる外国人観光客への「余市八景（ワインブドウ畑）」の解説やPR等（多言語化による情報発信）に取り組む。
 - ・高校卒業後、就職した生徒に対する追跡調査を行い、業務内容を把握するとともに、本校の教育活動や本事業の取組について卒業生による自己評価を実施する。進学者についても進学先の教育機関を卒業した後、追跡調査を行い、地域の基幹産業に就職した生徒の人数等の実態把握を行う。
- * 昨年度、地域みらい連携会議において、これまでの取組と最終年度の計画について報告した。委員から研究主題である「農業の6次産業化～北のフルーツ

(別紙様式)

王国ワイン特区と連携した町づくり～」の実現へ向け、これまでの各班の取組を有機的に統合する企画立案等が大切であると助言をいただいた。今年度は、そうした取組として「高校生ワインツーリズム」を実施することにより各班の取組を統合し発信する企画を立案するため、ツアー等の運営ノウハウを持つ企業や関係機関と連携し、「高校生ワインツーリズム」の実現へ向けて取り組む。
(教育課程上の位置付け)
・3年次「総合的な探究の時間(課題研究)」「果樹」「地域果樹」

(4) 実践研究の規模

3年次生全員で「総合的な探究の時間(課題研究)」において実施する。

(5) 研究成果の普及方法

地域みらい連携会議の開催に合わせて「高等学校 OPEN プロジェクト事業」について学校ホームページに掲載する。
総合学科研究発表会や農業の各種発表会等で研究成果を発表する。

(6) 3年間の研究計画

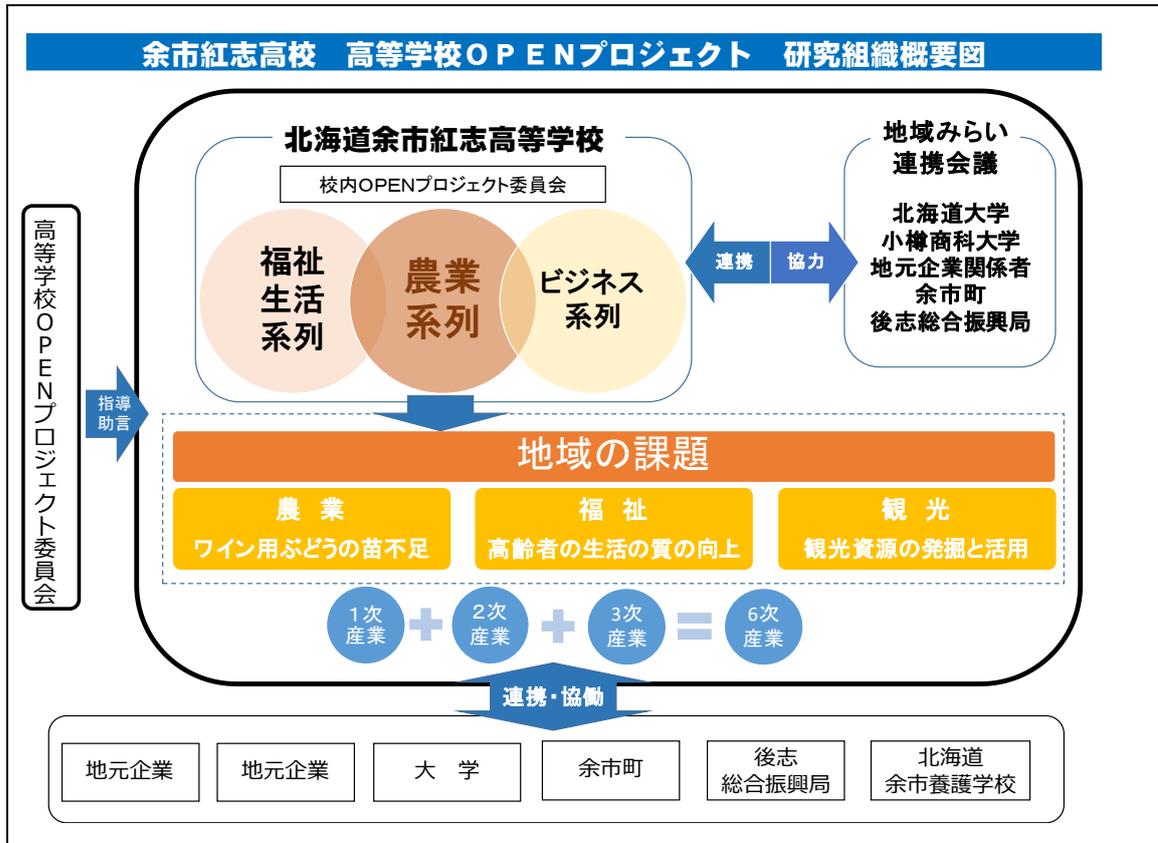
研究年度	研究内容
平成30年度 (1年次)	<ul style="list-style-type: none">・環境や風土等、地元の基幹産業「ワイン用ぶどう」を学び、地域の現状と課題を理解し、発見する。・地域の高齢者の生活の現状を把握するとともに、高校生との交流を通して、高齢者の生活の質の向上を図る。
令和元年度 (2年次)	<ul style="list-style-type: none">・「ワイン用ぶどう」の栽培について、地域の自治体や企業等と協働し、企画立案や実践研究、課題解決に取り組む。・本事業で連携する施設の高齢者に対するヒアリングを通して第3次産業の研究として、ワインツーリズムを生かすノーマライゼーションの考えを踏まえた可能性と高齢者の生活の質の向上を図る。・全道フォーラム(農業の高度化・6次産業化への貢献に向けた学校の取組と成果について)
令和2年度 (3年次)	<ul style="list-style-type: none">・「ワイン用ぶどう」の栽培をテーマとして課題解決に協働的に取り組み、学校ホームページへの掲載や総合学科研究発表会で研究成果を発表するなどの情報発信を地域の自治体や企業等へ行うことにより、成果を地域社会に還元する。・ワイン加工・販売・サービス・マーケティングの実態調査から販売戦略を立案する。・ノーマライゼーションの考えを踏まえた高齢者の生活の質の向上につながるサービスの提供を促進する。・10月の成果発表会(農業の高度化・6次産業化への貢献に向けた取組の成果と今後の方向性について)

(7) 令和2年度の実践計画

実施月	実践内容
4月～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年次農業系列「総合的な探究の時間（課題研究）」70時間 選択科目「果樹」（生徒8名）20時間 選択科目「地域果樹」（生徒8名）20時間 内容：(1) 基幹産業である果樹栽培と観光資源の現状や活用など、農業・福祉・観光等に係る課題を探究するとともに、研究に関係する事業所でインターンシップを行い、課題設定のための調査を実施する。また、調査結果を基に、設定した課題の解決に向けた方策について検討する。 (2) ぶどう苗木の育成に係る畑の管理、整備について学習を進める。 連携・協働機関：平川ファーム 実施場所：本校農業、平川ファーム農場
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第7回校内OPENプロジェクト委員会 ・ 第7回地域みらい連携会議 ・ 「地域向けプロモーションビデオ」作成
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回校内OPENプロジェクト委員会 ・ 第8回地域みらい連携会議
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果発表会（OPENプロジェクト発表） ・ 高等学校OPENプロジェクト講演会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第9回校内OPENプロジェクト委員会 ・ 第9回地域みらい連携会議
未定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光分野「研究施設への視察訪問」 内容：本校の観光案内の取組及びインバウンド対応化 連携・協働機関：小樽商科大学及びCBツアーズ 実施場所：小樽商科大学及び本校 ・ 農業分野「研究施設への視察訪問」 内容：バイオテクノロジーの視点からのブドウ苗木の学習 連携・協働機関：北海道大学又は北海道ハイテクノロジー専門学校 実施場所：北海道大学又は北海道ハイテクノロジー専門学校

4 研究組織

(1) 概要図



(2) 校内研究担当者

職名	氏名	担当教科・分掌等
教諭	○大野 悟	農業科・実習部
教諭	太田 絢子	福祉科・教務部
教諭	菅原 真司	英語科・教務部

(3) 連携・協働先

連携・協働先	具体的な連携・協働内容
余市町経済部農林水産課	ぶどう栽培における連携協力指導
ドメーナタカヒコ代表 曾我貴彦様	ぶどう栽培指導、農業経営に関する講話等
ワイナリー夢の森代表 大下聡様	ぶどう栽培指導、農業経営に関する講話等
平川ファーム 平川敦雄様	ぶどう栽培指導、農業経営に関する講話等
余市果樹農家 岩田志織様	ぶどう栽培指導、農業経営に関する講話等
養護老人ホームかるな和順	高齢者の生活の質の向上に関する講話等
北海道余市養護学校	高齢者の生活の質の向上に向けた協働的な学習
株式会社 シービーツアーズ	ツアー等の運営ノウハウ等に関する講話等

(別紙様式)

(4) 地域みらい連携会議構成員

所属・職名	名前	備考(専門分野)
北海道大学大学院農学研究院連携研究部門連携推進分野地域連携経済学(准教授)	小林 国之	地域連携経済学
国立大学法人小樽商科大学グローバル戦略推進センター産学官連携推進部門(准教授)	後藤 英之	産官学連携
北海道後志総合振興局(地域創生部長)	樋口 知己	地域創生
余市町経済部農林水産課(課長)	濱川 龍一	農林水産
社会福祉法人徳風会(施設長)	寺井 瞳	福祉
ワイナリー夢の森(代表)	大下 聡	農業
果樹卸売業者	岩田 志織	商業

5 その他特記すべき事項

特になし

6 研究のイメージ図

